

窯本体が今に残る須恵器窯

かめがはら 亀ヶ原1号窯跡

瀬戸内市北東部から備前市南西部にかけて約1300基の窯が確認されていて、備前地方の一大須恵器生産地として知られている邑久古窯跡群があります。

このうち、現在確認されている窯の中で最古の操業は、6世紀中ごろの木鍋山1号窯跡（長船町土師）であり、その後、窯が移動しながら操業され備前焼へとつながります。

瀬戸内市指定史跡の亀ヶ原1号窯跡は、長船町西須恵の桂山から南に延びる標高約90mの南東に面した斜面に築かれています。

近年、測量調査を行った結果、全長約8m、幅約1.5m、高さ約1m、中央部の傾斜が30度の地下式の登り窯であることが分かりました。



亀ヶ原1号窯跡の窯内部

採集された蓋杯・甕などの須恵器片から飛鳥時代（7世紀前半ごろ）の操業と推測しています。

須恵器の窯は、操業を終え破棄するときに壊したり、

長年の風化により自然崩落したりするものが多いのですが、この窯は、焼成口部と煙道部が自然崩落しているものの、大部分の天井部が操業時のまま残っています。

現在まで須恵器窯本体の大部分が残っている数少ない存在は、窯の構造を知ることが貴重な遺跡となっています。

また、通常窯の下斜面に存在するはずの灰原がこの窯では、これまでに不思議なことには確認することができていません。

このほかにも桂山の南麓には、数基の窯が確認されており、いずれの窯も6世紀末から7世紀前半の操業と考えられます。

亀ヶ原1号窯跡と同時期に操業されている窯には、国指定史跡となっている寒風古窯跡群の1号窯があります。

備前地域を代表する窯跡群で生産された数多くの製品は、瀬戸内海をわたり近畿地方へも流通しています。これら瀬戸内市の歴史を知る貴重な窯跡を永く後世に残し伝えたいと願います。

- 【参考文献】
- ・牛窓町史
 - ・長船町史
 - ・長船町の文化財

ホップ・ステップ・ジャンプ



このコーナーは、生涯学習に生き生きと取り組む皆さんを紹介し、皆さんも仲間入りしませんか。

一編一編気持ちを込めて「手編みクラブ」

セーター・カーディガン・マフラー・室内履きなど、冬には欠かせないアイテムを、邑久町公民館で楽しみながら、編み物をしている手編みクラブの皆さん。思い思いの品を、一編一編気持ちを込めて編んでいます。

手編みは、かぎ針や棒針を用い、細編み・長編み・メリヤス編み・模様編みなどの編み方で、作品を作ります。編む人の力加減で大きさが変わるため、ゲージをとって、着る人の体に合った製図を作成。模様や柄を考えながら編んでいきます。編み直しもできる手編



自分で作ったセーターを着て講座に参加する手編みクラブの皆さん

みは、物を大切にすることも育みます。

年1回、文化祭で作品を披露。「手編みのセーターをプレゼントすると、もらったひとにも、オンリーワンの品と喜んでくれますよ」とクラブの皆さん。着たいものが自分で編めるので、楽しさも倍増です。

- ★活動日時 第2・4水曜日 午後1～4時
- ★活動場所 邑久町公民館
- ★会費 月2、500円
- ★連絡先 田中広美さん
- ☎0869-22-1756

明るく楽しく「瀬戸内エンジェルス」

瀬戸内エンジェルスは、長船地域を中心に活動しているフットボールクラブです。小学校4年生から6年生までの女子15人が、毎週、サッカーボールを追いかけてグラウンドを駆け回っています。クラブのモットーは「明るく楽しく」。ドリブル、シュート、ミニゲームなどの練習に精を出します。



岡山県代表に選ばれた岡村実加子さん(左)、榎原紗希さん(中央)、森瑠菜さん(右)

選手として、同クラブから3人の選手が選ばれました。「点をたくさん取り、全国制覇したい」と意気込みを語る岡村実加子さん（12歳・長船町土師）。

「サッカー大好き」と口をそろえて話すクラブメンバーたち。サッカー好きな女の子、一緒に始めてみませんか？ 幼稚園児から参加できます。

- ★活動日時 土・日曜日 午前9時～11時30分
- ★活動場所 長船ベネッセグラウンド
- ★会費 月1、000円
- ★連絡先 宇高正樹さん
- ☎090-2290-1629



サッカーが大好きな瀬戸内エンジェルスの皆さん